

一般社団法人
兵庫県病院協会
会報

● 発行 ●
一般社団法人兵庫県病院協会
〒651-0086
神戸市中央区磯上通
6丁目1番11号
兵庫県医師会館7F
TEL (078) 251-3030
FAX (078) 251-3011
会報編集委員会
印刷 株式会社 七旺社



目次

— 巻頭言 —

認知症予防への取り組み

(一社) 兵庫県病院協会副会長 神戸大学 理事・副学長 杉村 和朗 3

— 随 筆 —

明日をどう迎えるのか

(一社) 兵庫県病院協会理事 JCHO神戸中央病院 病院長 大友 敏行 4

病院フェスタの夏

(一社) 兵庫県病院協会理事 西脇市立西脇病院 病院長 岩井 正秀 5

= 会員病院紹介 =

公立豊岡病院組合立豊岡病院日高医療センター 病院長 田中 慎一郎 6

医療法人仁風会 小原病院 病院長 小原 茂次 8

= 事務局短信 =

平成30年度近畿病院団体連合会第1回委員会報告 10

= 編集後記 =

(一社) 兵庫県病院協会副会長・会報編集委員長

兵庫県参与 兵庫県立尼崎総合医療センター(AGMC) 名誉院長 藤原 久義 10



播州の秋祭り

〈表紙の写真〉

播州の秋祭りとは、兵庫県南西部の播磨地方一帯の神社で行われる大小様々な秋季例大祭を総じて指し示すときの呼称です。多くの神社で屋台と呼ばれる太鼓台の練り出しが行われ、町を練り歩きます。はっきりとした由来や歴史は不明ですが江戸末期には屋台(太鼓台)が誕生したと言われています。川沿いに商業が発展しそれとともに屋台(太鼓台)が競うように作られていったようです。屋台(太鼓台)は大きく分けて三つに分別できます。神輿屋根屋台(一般的な神輿タイプ)、平型布団屋台(屋根が布団を重ねたような形のタイプ)、山型布団屋台(布団が反り返ったような山型の形のタイプ)です。どのタイプもキラキラと輝いて見える豪華絢爛な装飾が施されており、遠目にも見事な屋台(太鼓台)となっています。

各神社ごとに趣向を凝らした屋台(太鼓台)を出すのでお目当ての神社巡りをするのも秋のひとつを豊かなものにしてくれるかもしれません。

巻頭言

認知症予防への
取り組み

(一社)
兵庫県病院協会 副会長
神戸大学
理事・副学長 杉村 和朗

神戸大学に異動して、20年になります。8年前から元町へ移ったのを機会に、自家用車をやめてしまいました。2015年からは長年勤めた神戸駅近くにある神戸大学病院から異動して、阪急六甲駅の山手にある神戸大学本部に勤務しています。真夏以外は阪急六甲から20分ほどかけて歩くことにしています。学生たちが息も切らせずに急坂を登っていくのを見ながら、自分のペースで登っていきます。大きく遅れても、登りきった時のちょっとした満足感を楽しんでいます。

大学という組織は、毎年何千人もの新しいティーンエイジャーが来て、22歳で何千人かが去り、新しい大学院生が来てはまた去り、60歳から65歳になると職員が去って行きます。大学の人口構成は世間よりかなり若く、65歳以上人口が0%に近いという特殊な世界です。患者を含めて高齢化率の高かった大学病院が長かった身としては、当初は大変新鮮な印象でした。若者たちと話す機会は少ないですが、澁刺とし動きや笑い声を聞いていると、元気がもらえます。

最近の日経の記事にスマートフォンの話が出ていました。ハーバードビジネスレビュー誌によると、スマホが目に入ると、たとえ画面を見なくても記憶力や思考力が低下するという記事の紹介です。参加者は複雑な認知作業を行いながら、作業に関係した情報をどれだけ覚えていられるかを試す評価と、複数の画像からパターンを見出し、そのパターンを完成させる画像を1つ選ぶ、すなわ

ち新しい問題を分析し解決する能力を測定する能力の二つで評価されました。その成績は、スマホを別の部屋に置いたグループで、次がポケットにしまったグループ、スマホを机の上に置いて作業したグループの順だったそうです。

人間の認知能力は、机の上にあるスマホが目に入るだけで、予想もしない強い影響を受けます。スマホが日常生活に大きな影響を与えているため、たとえ使わなくても脳が大きな刺激を与えられるのでしょうか。若者は大きな刺激を与えてくれるので、たとえ目にするだけでも、脳を活性化するのかもしれませんが。介護施設を幼稚園児が訪れると、認知機能に良い影響を与えるとして、積極的に取り組んでいる施設があります。視覚からの刺激は認知機能に対して予想以上に大きく、また複雑であることがわかります。

さて現在大学全体で取り組んでいる認知症予防プロジェクトでは、新しい認知機能診断システムを研究し、市民から参加者を募ることにあわせて、教職員の参加を得て、認知症の実態解明とその予防を行う準備をしています。合わせて、経験と長時間かかる認知機能の評価の手助けになる手法の開発を、企業と連携して取り組んでいます。ポートアイランドの神戸大学国際がん研究・医療センターで設置を進めているバイオバンク事業とリンクさせて、認知症に特有なバイオマーカー、並びにMRIやCTを用いた、画像バイオマーカーの有用性についての研究を行なう予定です。これらの指標を用いて、国立長寿医療研究センターが主導している、コグニサイズ等による予防効果についての客観的指標を出そうという研究を開始しています。神戸大学に長くいる教職員に認知症が少ないかどうかはわかりませんが、毎日坂を登って、若い人たちから刺激受けると、なんとなく頭も若返って来るような自己満足感を客観的指標で明らかにできれば、モチベーションが上がるのではないかと期待しています。

日本が高齢化して行く中で、最も大きな問題の一つである認知症は、2025年には700万人以上にも達すると言われていています。もちろん、神戸市、兵庫県も例外ではありません。本プロジェクトは

まずは神戸市で始めますが、丹波圏域へと広げていく予定にしています。並行して、全県に進めて行くよう行政とも相談を始めています。各地域の先生方と連携しながら認知症予防プロジェクトを進め、兵庫県が認知症予防先進県となれるよう、頑張っていくつもりです。兵庫県病院協会の先生方にも、ご支援のほどよろしくお願い致します。

随筆

明日をどう迎えるのか



(一社) 兵庫県病院協会 理事
JCHO 神戸中央病院
病院長 大友 敏行

私の父は早世しましたので母は40年前から一人暮らしをしています。最近は週末に1度は行って、2時間ぐらい話をしてしています。幸いほぼ自立して暮らすことができているのですが、難聴がひどくて補聴器をしていても大声で話さなくてはなりません。会話の形は取れるのですが、話の筋道に関係なく彼女はどんどん語りかけてくる状態ですので、対話というより聞いているというのが本当のところだと思います。母には自分が長生きであることに対する喜びもあるようですが、自身の体力や認知機能の衰えも含めた現状に対する不安感も強く感じられます。そんな母と身近に接するようになったからか、古希に近づいたこれからの自分の生き方について考えてみました。

わが国の平均寿命が50才を超えたのは昭和22年です。当時の統計上では、私も含めその頃生まれた人は「だいたい50才くらいで亡くなる」と予想されていたわけです。ではいつの時代から人生50年だったのかと知りたくなりますが、統計がはっきりしてないので大まかなことしかわかりません

が、江戸時代から特定の集団においては、ほぼこれに近いという説もあります。寿命という生活全体に関わる土台が、私が生まれて生きている間にこうも急が変わってしまったということになり、驚く他ありません。

長く生きてもそれを実感するためには記憶装置が優れていないと実感できないわけですが、認知症という病名が付かなくてもどうもそううまくはいかないように思われます。年老いてからの時間も若い時と同じリズムで流れているはずですが、私の最近の6年を小学校時代に比べるとその差は歴然です。パソコンならとくに古い内容をしっかりコピーした上で、記憶装置を最新のものに取り換えて、当然OSもグレードアップしているはずですが。ただ人間の場合は2倍生きたからといって2倍データが残っているようには思えません。たぶん本当は残っているのですが、関連するキーワードが破損してうまく利用できないという状態です。あれやこれやと検索をかけるのですが満足する結果が示されず、焦燥感と最後には絶望感に苛まれる結果となります。母にもこの状態が見え隠れします。

織田信長が好んで舞ったとされる『敦盛』は、幸若舞の演目のひとつとされますが、「人間五十年、化天のうちを比ぶれば、夢幻の如くなり 一度生を享け、滅せぬもののあるべきか」という有名な一節があります。私たちは彼が生きた無常の世界より、皮肉にも長生きが可能になったことにより、もっと無常な現代世界に生きる羽目になったと言えるでしょう。私もしかるべき時が来れば、出家するとでも言い残して施設に入らねばならないでしょう。〇〇寺と看板が上がっていれば入所し易いのですが。

ところで少子化が問題視される中で、精子の働きに関する記事は増えています。今まで射精された精子の中で卵子に一番乗りできるのは、一番元気のいい精子が混戦を抜け出して受精できると習ったように思います。しかし実はそう単純ではないという記事が載っていました。研究によると射精された精子達は3種類のグループ、すなわちブロッカー・キラー・エッグゲッターのそれぞれ

の部隊に分かれて行動するという事です。調査された役割をおおまかに説明すると、ブロッカーはあまり動こうとはせず子宮頸管内に留まり、群れをつくって他人の精子の子宮頸管への進入を防ぐ役割をもっています。キラーは他の精子に出会うと、免疫細胞のように同じ遺伝子を持つ精子か否かを頭部表面の化学物質で確認し、異なっていれば激しく戦い、相手精子の動きを止めてしまう役割をもっています。エッグゲッターはキラーに囲まれながら卵子を求めて行動します。その頭部の化学物質は、卵管へと進む中で受精能を獲得する物質に変貌し、卵子の殻を破って一つに結ばれ、新たな生命を誕生させることになるそうです。しかし卵殻細胞に穴あける際には力尽きることもあり、途中で別の精子が、その穴を引き継いで到達する場面も捉えられているという事でした。

この世に生まれる前から、何といじらしい共同作業をして私は今ここにいるのだらうと久し振りに感動しました。エッグゲッターだけでも百万、キラーは数千万規模の数であるとされています。またブロッカーは比較的長い間射精されずにいた年老いた精子たちで構成されているというではありませんか…。ひょっとするとこの記事を若い時に読んでいれば、「成程な」で済んでいたかもしれません。でも今読めば視点が違うのです。共同作業というより年老いた精子が演じるブロッカーの役割になぜか情が入るのです。改めて自然の摂理に感服しました。私の半身が70年近く前、エッグゲッター男精子として父がくれた遺伝情報を持って母の体内を戦い進んだ時も、仲間が傍にいて先輩たちが盾になり身代わりとなってくれたことに心を揺さぶられました。

もうこれ以上書く必要はありません。無意識のうち到我々は合体して生まれる前からそれぞれの親の望み？を叶えるため自ら頑張り、あるいは仲間のために道を譲るなどして、一筋に生きてきました。もしかすればこれからは認知機能の低下が自然にそうさせてくれるのかもしれませんが、我々老人にはリスクな現場こそが似合います。生命体全体から見れば、そのお役目があるから今生かされていると言えましょう。今も母が生きて

いることに感謝し、命を使える機会があることを祈って明日を迎えたいと思います。

病院フェスタの夏



(一社)兵庫県病院協会 理事
西脇市立西脇病院
病院長 岩井 正秀

今年も非常に厳しい猛暑の中、7月第3週の土曜日に、西脇病院において恒例の病院フェスタが開催されました。これは毎年1回夏に行われているイベントで、今年で10回目となります。第1回は病院を全面的に改築して、その完成披露の際に開かれました。このフェスタには、市民の皆さんにいつもとは違う病院の顔を見てもらおう、この地域の病院として親しみを持ってもらおうといった目的があります。当初は院内のスタッフにも、病院で賑やかな催しなんていかがなものか、という意見もあったのですが、住民の皆さんには予想以上に好評で、以後毎年学校が夏休みになる頃に開催をしている次第です。

今年は10回目の記念ということもあり、いつも以上に企画の段階から力が入っていました。各詰所や部署ごとにコーナーを設けて、血糖値や骨密度の測定、リハビリ体験、物忘れチェックも行いました。夏休みが始まったということで子供さんも多く、スーパーボールすくいや、子供用の白衣を着ての写真撮影、手術室見学も人気でした。

また、エントランスホールにはステージを作り、そこで様々なアトラクションがありました。まず幼稚園児による合唱、鼓笛隊が登場し、家族がそろって応援をしていました。次に高校生による自作自演のファッションショー。これにはすべて西脇の地場産業である播州織が使われており、観客

からも大きな拍手がありました。また西脇出身のシンガーソングライター AOIさんによるミニコンサート、同好会によるマジックショーと多彩な出し物が続きます。

そしてステージの最後は、病院職員によって結成されたグループによるコンサートでした。これは混声3部のコーラス隊12人と、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ピアノ、ドラムスからなるバンドによって構成された大人数のグループです。このグループはメンバーを毎年変更しながら、第1回のフェスタから出演しているのですが、最初に言いだした手前もあり、私がリーダーを務めてきました。私はずっとアコースティックギター担当ですが、楽器の上手なメンバーも増え、リーダーといってもあまり大した仕事はしていません。ただ、演奏する曲目の最終的な決定権だけはリーダーの特権として固持しています。今年も6月の中旬から、夜のリハビリ室を借りて練習を重ね本番に臨みました。今回のメンバーは医師、看護師、リハビリの療法士、事務職、薬剤師と、院内の様々な部署から集まっており、なかなか全員がそろっての練習は困難です。それ

でもフェスタに向けて徐々にグループとしてのまとまりが生まれ、音楽が形になっていくのを実感するのはとても楽しいものです。当日は多くの観客のもと、村下孝蔵の『初恋』、かぐや姫の『神田川』、ミスターチルドレンの『HANABI』などを演奏しました。バイオリンの上手な研修医がいたので『神田川』も選んだのですが、中年以上の方々に大いに受けたことは言うまでもありません。フェスタが終わって一息ついたら、来年の演奏曲を考えるのが楽しみです。

今年は、スタッフが頑張ってくれたこともあり、過去10年間で最高の3500人もの住民の方々がこのフェスタを訪れてくれました。こうした催し物も、地域の病院として親しまれ、大切にされることの一助となるのではないのでしょうか。因みに、私たち病院職員によるコーラスバンドのグループ名は「Moss Pink」といいます。これは英語で、西脇市の市花である芝桜のことです。その花のように、一輪一輪は小さくても、沢山集まれば、美しく力強いものになるという思いで名付けました。病院もまた、そうありたいと、心から願うところがあります。

会員病院紹介

公立豊岡病院組合立

豊岡病院日高医療センター



病院長 田中 慎一郎



病院概要

豊岡病院組合は豊岡市と朝来市の2市で構成される一部事務組合で、豊岡市内には、豊岡病院、日高医療センター、出石医療センターの3つの病院が、朝来市には朝来医療センターがあり、但馬全域の急性期・高次医療を担う基幹病院としての豊岡病院を中心に、組合内各病院がネットワークを形成し、地域の医療をカバーしております。

日高医療センターは昭和22年に公立豊岡病院の分院として開設し、昭和52年に人工透析センター、平成8年に健診センター、平成19年に眼科センターと医療機能を追加しながら豊岡市日高町の地域医療を支えてまいりました。

日高医療センターの役割としては、大きく分けて以下の3つが有ります。

- 1) 高次医療まで受け持つ眼科センター
- 2) 特色ある外来機能としての透析センターと健診センター
- 3) プライマリケアとしての内科、産婦人科、整形外科、外科外来

眼科センターでは、あらゆる眼科疾患を但馬地域内で安心して治療して頂ける事を目標としています。手術を目的とした高度な医療を提供するとともに、但馬地域の眼科疾患の砦として、今後とも充実した運営を維持したいと考えています。

透析センターでは、但馬地域最大規模の施設として今後とも当地域の透析医療の充実に精励してまいります。

また、日高医療センターの特色の一つとして、旧日高町循環器健診を基礎とした高血圧、動脈硬化に対する研究、治療の伝統を引き継ぎ、生活習慣病に対する取り組みを続けています。健診、各種教室（糖尿病、高血圧、高脂血症）を通じて、生活習慣病の予防・治療を推進したいと考えています。

さらに今後は、域包括ケアシステムの医療拠点としての機能を担うべく、今年度、新たに訪問看護ステーションを開設いたしました。

- 標榜診療科：内科 外科 整形外科 皮膚科
産婦人科 眼科 リハビリテーション科
放射線科
- 併設施設等：人工透析センター 健診センター
眼科センター 訪問看護ステーション



眼科センター

施設概要

医療機関名：公立豊岡病院組合立
豊岡病院日高医療センター
開設主体：公立豊岡病院組合
所在地：豊岡市日高町岩中81
許可病床数：99床（一般病床57床、休床36床、ドック6床）



但馬最大規模、64床の透析センター

病院の沿革

- S22 公立豊岡病院日高分院として開設 [20床]
- S40 公立豊岡病院組合立日高病院に名称変更
- S43.07 日高町日高地区等の循環器疾患予防検診実施
.12 人工透析開始 [10床]
- S55.10 夜間人工透析開始
- S62.05 自治体立優良病院として「全国自治体病院開設者協議会会長賞」受賞
- H01.03 新館増築 透析室増築 [45床]
- H08.04 健診センター開設
- H16.04 人工透析室増築 [64床]
- H17.01 療養病棟開設 [36床]
- H18.01 整形外科、皮膚科開設
- H19.09 眼科センター開設
.10 公立豊岡病院組合立豊岡病院日高医療センターに名称変更
- H23.05 乳腺初診外来開設
- H24.05 訪問リハビリ開始
- H29.08 療養病棟休床
- H30.04 訪問看護ステーション開始

おわりに

当院は、平成27年に法令に基づいて実施した耐震診断で、一部建物において耐震性が不十分であることがわかりました。利用者の安全確保のため早急な対応が必要ですが、診療を継続しながらの耐震補強は困難であること、また、医療制度改革や、人口動態、医療ニーズの変化等への対応も必要であることから、外部有識者等からなる「日高医療センターのあり方検討委員会」を設置、平成29年8月に「日高医療センター警備基本計画」を策定し今年度より事業着手をしております。(詳細はホームページに掲載しております。

www.toyookahp-kumiai.or.jp/hidaka/)

今後も日高医療センターは、豊岡病院、各地区医療センター、地域開業医院が形成する医療ネットワークの中で連携を図り、特色を生かしながら地域医療の充実に注力し、皆様から信頼される病院を目指してまいります。



医療法人 仁風会

小原病院



病院長 小原 茂次



はじめに

小原病院は、昭和28年診療所として開院、昭和31年急性期病院として開設、外科・内科・整形外科など幅広い範囲において地域医療の一翼を担って参りました。

病院理念

地域にねぎした病院づくり

病院の概要

所在地：〒652-0032 兵庫県神戸市兵庫区
荒田町1丁目9番19号

電話番号：078-521-1222

FAX番号：078-521-2710

開設者：理事長 奥野 邦男

管理者：院長 小原 茂次

許可病床数：185床

- (急性期) 3病棟49床 (障害者病棟)
- 4病棟44床 (障害者病棟)
- 5病棟46床 (障害者病棟)
- 6病棟46床 (障害者病棟)

標榜科目：外科・整形外科・内科・消化器内科・
循環器内科・呼吸器内科・放射線科・
麻酔科

病 院 の 紹 介

外来部門では、疾患の早期発見・早期治療の重要性から、必要に応じて胃カメラ・大腸ファイバー(同日施工もしております)、CT・エコー等の画像診断などを行っております。又、糖尿病・メタボリック症候群などに対し、予防医学的な概念にもとづき食事療法等も含め対処し、早く健康をとりもどせるように、日々努力をしております。

入院部門では、障害者病棟として、一般的な患者様の他に、人工呼吸器・気管切開により在宅等では治療困難な患者様がおられ、呼吸管理や経腸栄養などによる栄養管理、歯科往診などによって治療に努めております。

人工呼吸器は、ドレーゲル社ザビーナを82台・コビダイエン社ピューリタンベネットを17台所有し、現在4ヶ所の詰所で72台を使用中です。

人工呼吸器管理の患者様に対しては、パルスオキシメーター等を装着し、ナースステーションに設置したセントラルモニタで一元的に管理し、安全を期しております。

また褥瘡に対し、栄養管理をベースに、自動体位変換機能付高機能エアマットレス(MOLTEN社OSCAR)による体圧分散・除圧、寝床内の<むれ対策>によって予防に努め、生じた褥瘡に対しては適切・早期の外科的治療を行っております。

お わ り に

患者様が早期から適切な診断を受け、迅速に治療を受ける事が出来るように努力してまいります。

また最近の診療報酬改訂では慢性期医療をどうしていくかが大きな課題の一つとなっています。当院では患者様が切れ目なく適切な医療・介護を

受けれるように、他の医療機関とも連携させていただきながら、地域の皆様に良い医療を提供できるように努力しております。



全身用 CT 室マルチスライス型



ドレーゲルメディカル社製「ザビーナ」

＝事務局短信＝

平成30年度近畿病院団体連合会第1回委員会報告

平成30年度近畿病院団体連合会第1回委員会は、7月19日（木）大阪府の大阪新阪急ホテルにおいて開催され、当協会からは、守殿会長、藤原副会長、大村副会長、杉村副会長、太城副会長、橋本事務局長が出席した。

大阪府病院協会木野 昌也副会長の開会挨拶に続き、大阪府健康医療部長の藤井 睦子氏の来賓挨拶があり、議事に入った。

1 役員を選出

原案どおり全会一致で承認され、委員長には、佐々木 洋大阪府病院協会会長、副委員長には、守殿 貞夫兵庫県病院協会会長及び木野 昌也大阪府病院協会副会長が選出された。当協会からは守殿会長の他、藤原、大村、杉村、太城副会長は委員に選出された。

2 協議事項

第7回医療計画に基づく地域医療構想の推進について、大阪府病院協会から提案説明があり、各協会からその取組状況及び課題について報告がなされた。

3 基調講演

「病院の未来を拓くのは今だ ―チャンスをつかえ、イノベーションを創る―」と題して、一般社団法人日本病院会会長の相澤 孝夫氏の講演があった。

編集後記

私は現在、兵庫県参与として「ひょうご人生100年時代プロジェクト」推進委員会委員長であるが、主要課題は超高齢化問題で、増大する認知症や長い老後をどう生きるかである。幸い、秋季号では杉村副会長が巻頭言で「認知症予防への取り組み」というタイトルで認知症に対する神戸大学の取り組みを、大友理事が「明日をどう迎えるのか」という随筆で超高齢化社会の生き方について興味深いエッセイを寄稿していただいた。岩井理事が「病院フェスタの夏」で活気あふれる病院の様子を紹介されている。また、豊岡病院日高医療センターの田中病院長、小原病院の小原院長から病院紹介をいただいた。

それぞれ、読み応えがあり、面白い会報ができたと思う。

最後に、会報の発行にご協力いただいた執筆者各位と編集事務担当者に心から感謝したい。ありがとうございました。

(一社) 兵庫県病院協会副会長・会報編集委員長

藤原 久義

兵庫県参与 兵庫県立尼崎総合医療センター(AGMC)名誉院長 記